

2005年度財団法人淡海文化振興財団事業計画

基本方針

県内のNPO活動は社会のあらゆる分野に浸透してきている。また、多くのNPOにおいては、活動の広がりとともに専門性を持った事業への取り組みが進んでおり、事業の企画力や団体経営のマネジメント能力が求められる段階に達している。

当財団は、こうした現状を踏まえ、NPOの自立した成長発展を支援するため、各種情報の収集・提供や相談事業、人材の育成事業、基金助成事業等の事業を実施する。

本年度は、「おうみNPO活動基金助成事業」を拡充するほか、NPOの経営力向上のため事業企画・実施にかかるサポートや会計・税務などの専門分野に関する相談等団体の基盤整備に係る支援を重点的に実施する。

また、新たな事業としては、地域支援センターとの情報交換や相互の機能強化を図るための「NPO支援センター連携事業」やおうみ未来塾卒塾生の地域プロデュース力を活用するための連携強化に向けた取組を始める。

県立県民交流センターの管理運営を引き続き県から受託する。

事業計画

1 情報提供事業

(1) 情報交流誌「おうみネット」の発行

2003年度より紙面を一新し、ページ数を増やしたところだが、引き続き充実した内容でセンター事業、意見提言、活動団体などの情報を提供していく。

A4判12頁 隔月発行(年6回) 部数 1万部/回

配布先 活動団体、市町村、図書館、中学・高校等

(2) 活動団体データベースの整備

活動団体データベースの整備を行うことにより、センターでの情報提供に活用する。

(3) 淡海NPOデータファイルの発行

活動団体を広く紹介し、ネットワークの形成を促すため、活動団体データベースをもとに、淡海NPOデータファイルを作成・発行する。

(4) ブックレットの発行

センター主催の講座などの記録をブックレットにまとめ発行する。

3種発行 部数 700部

(5) 情報・資料の収集と閲覧・貸出

地域づくり情報、ひと情報、活動団体情報、国や自治体の施策情報、助成団体情報などを収集し、提供する。

(6) インターネットの活用

インターネットを活用してセンター情報などをホームページを通じて発信する。

(7) メールマガジン「おうみネットe~マガジン」の配信

無料メーリングリストを利用して、活動団体等に月3回程度、イベント、助成金、センター事業等の情報提供のサービスを行う。

2 交流事業

(1) 淡海ネットワークサロンの開催

県内各地の市民活動の現場で開催する市民サロンや、企業の社会貢献活動と市民活動の連携方策を検討するための研究サロンを開催する。また、特定テーマによる市民団体等との共催のサロンも開催する。

5回開催

(2) 交流サロンの運営

ピアザ淡海内の交流サロンを運営するとともに、掲示板、情報ラックを活用し、人と情報の交流を図る。

3 活動活性化事業

(1) 相談業務

県民や団体の市民活動に関するさまざまな相談にきめこまやかに対応するため、市民活動経験者を嘱託職員として雇用し相談窓口を運営する。

(2) おうみ市民活動フォーラムの開催

活動団体同士が共通のテーマをもとに相互にノウハウや経験を交流し、今後の活動の活性化に資するために開催してきた「おうみ市民活動交流会」と、活動内容の紹介を行うため開催してきた「おうみ市民活動屋台村」を一本化し、「おうみ市民活動フォーラム」と名称を改めて実施する。

1回 11月上旬実施予定

(3) 各種講座開催

NPOのメンバーが自らモチベーションと当事者意識を高め、高いレベルの主体性をもって仕事や課題に取り組めるよう、活動活性化に資する知識・ノウハウを提供する講座を開催する。（「わくわく市民活動ゼミナール」と「ファシリテーター養成講座」を一本化）

5回 受講者 各30名程度

(4) 企業・NPOマッチング事業

企業や行政機関等で不要となった事務用品やPCを必要とするNPOへ仲介したり、逆にNPOの持つ人材・ノウハウを企業研修など活用できるよう紹介したりすることにより、NPOに対する企業の認識を高め、企業の社会貢献活動への取り組みを促すとともに、NPOの活動基盤の強化を図るためのマッチング事業を実施する。

(5) NPOサポート事業

市民活動団体の運営・事業実施に関してサポートするため、税理士等による相談会を開催するほか、適切な専門家を直接団体に派遣し、自立のための集中的なサポートを行う。

また、会計等組織運営に関する講座（マネジメント講座）を開催する。

相談会 2回 個別団体サポート マネジメント講座 2回

新(6) NPO支援センター連携事業

淡海ネットワークセンターと県内に設立されている地域支援センターのスタッフ同士が互いに研修し、またこれら支援センター間の情報交換を行うことによって相互の機能強化を進める。

メーリングリストによる情報交換

連携会議 6回(2か月に1度/うち淡海ネットワークセンター担当分1回)

(7) 情報ボックスの運営

団体間で自由に情報を交換できるボックスを運営する。

(8) ワーキングコーナーの運営

会報やチラシづくりの支援のため、印刷機、紙折り機等を備えたワーキングコーナーを運営する。

4 人材育成事業

おうみ未来塾の開催運営

地域づくりや環境保全活動などの新しい地域課題に取り組む魅力ある新しいリーダーを地域プロデューサーと位置づけ、こうした地域プロデューサーが育つ場としての「おうみ未来塾」を開催運営する。本年度は、新たに第7期生を受け入れ、第6期生とあわせた一体的な塾の運営を行う。

塾生 第6期生 23名 第7期生 25名程度
研修期間 2年間

5 おうみNPO活動基金の運営

従来 of NPO に対する資金面での基盤強化を図る助成枠を「一般事業枠」として引き続き助成を行うほか、新たに「協働事業枠」と「中間支援センター枠」を設け助成を行う。

< 一般事業枠 > 助成額	500千円 ~ 3,000千円
総額	10,000千円 / 年
< 協働事業枠 > 総額	5,000千円 / 年
< 中間支援センター枠 >	
総額	2,500千円 / 年

6 滋賀県立県民交流センターの管理および運営

生き生きとした地域づくりを目指して、社会貢献活動その他の様々な分野における自発的な活動に参加する県民が集い、交流するための施設である「滋賀県立県民交流センター」の管理および運営を県から受託する。